

ごみ出し・収集に係る地域の課題 調査結果等（抜粋）

（1）戸別収集方式の検討結果

- ・戸別収集が可能な世帯は全世帯の約6割程度であり、残りの約4割は集合住宅あるいは狭隘道路に面しており、これまでどおりステーション収集を継続する必要があることがわかった。

戸別収集の実施可能な世帯の割合

戸別収集が可能な世帯（約6割）	戸別収集が困難な世帯（約4割）
<u>59.2%（47,625世帯中28,176世帯）</u>	<u>40.8%（47,625世帯中19,449世帯）</u> うち2階建て以上の集合住宅 26.7%（12,716世帯） うち狭隘道路に面した住宅 14.1%（6,733世帯）

- ・また、費用面でも、現行のステーション収集と比べて、おおよそ1.8倍程度の費用がかかると試算された。

戸別収集を導入した際の必要な車両台数・人員・委託料等の試算（概算）

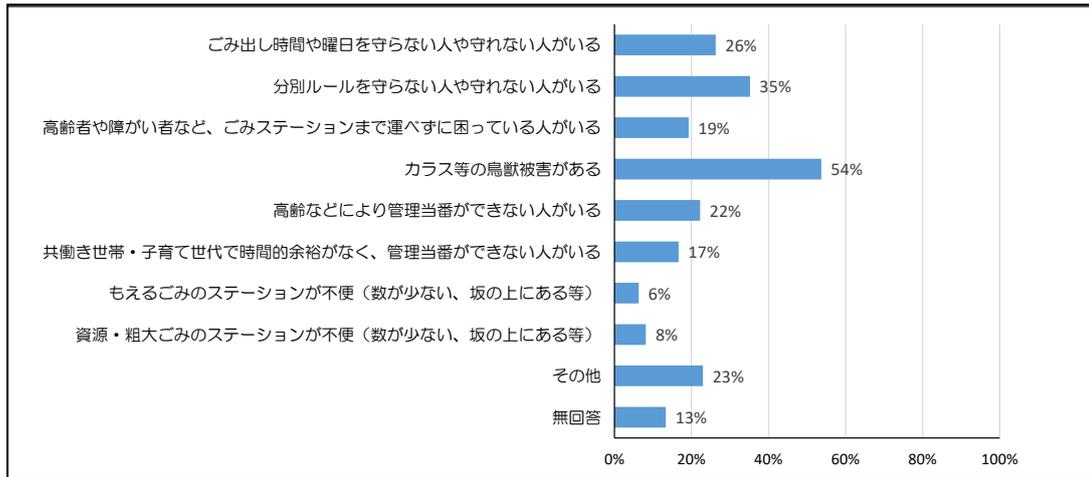
	現行 （ドライバーを含め1台当たり 2名乗車）	戸別収集 （ドライバーを含め 1台当たり3名乗車）	戸別収集 （ドライバーを含め 1台当たり2名乗車）
必要車両台数・人員 （運転手＋作業員）	11台 22名	⇒ 16台（+5台） ⇒ 48名（+26名）	⇒ 21台（+10台） ⇒ 42名（+20名）
委託料（税込） （R2年度ベースでの試算）	約3億8900万	⇒約6億9千万円 約1.8倍 +約3億円	⇒約7億4千万円 約1.9倍 +約3.5億円

（2）本市の家庭ごみ収集の現状と課題と地域での対応状況（自治会アンケートより）

①地域のごみ出しやステーション管理の課題

- ・地域（自治会）でのごみ出しやステーション管理に関して課題となっている点について、自治会に対しアンケート調査を行った。
- ・「カラス等の鳥獣被害がある」が最も多く、「分別ルールを守らない人や守れない人がいる」、「ごみ出し時間や曜日を守らない人や守れない人がいる」といったごみ出し時間や分別ルールなどの決まりに関する課題が比較的多い。
- ・「高齢者や障がい者など、ごみステーションまでは個別に困っている人がいる」地域も2割ほどある。
- ・また「高齢などにより管理当番ができない人がいる」、「共働き世帯・子育て世代で時間的余裕がなく、管理当番ができない人がいる」がそれぞれ2割前後で、ステーション管理の担い手について課題となっている地域も出始めている。
- ・ごみの「ステーションが不便」はそれほど多くないが、現に困っている地域があることがわかる。
- ・鳥獣被害に関する課題以外は、割合としては大きくないものの、既に様々な課題が顕在化している地域が出始めていることがわかる。

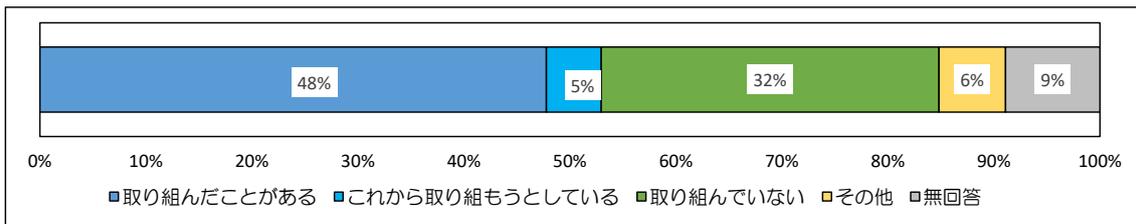
地域のごみ出しやステーション管理の課題



②地域での課題への対応

- ・「取り組んだことがある」が48%であり、ほぼ半数の自治会が取り組んだことがある。
- ・課題に対し行政任せにせず地域で取り組んでいる地域が多数あることがわかる。

課題解決のために地域で取り組んだことがあるか



③戸別収集の導入について

- ・「負担がなければ導入を検討したい」「私の地域では必要ない」が多く、負担が敬遠されたことがうかがえる。
- ・一方、「負担があっても導入を検討したい」も8%あり、課題の大きさや緊急性により、検討する解決方法が変わることが想定される。

